

## ナッシュビル市教育水準とウエストミード小学校における音楽授業

### Academic Standards and General Music Teaching at Westmeade Elementary School in Nashville Tennessee, USA

新 村 元 植

Genshoku Shimmura

#### はじめに

テネシー州ナッシュビル市は人口約60万人（2005年現在）の米国では中規模の都市である。米国における南部と北部の諸州の境界上に位置し、南北戦争（1860年-1865年）においてテネシー州は南軍側であったが東部は北軍、西部が南軍に分かれて戦った歴史がある。州都ナッシュビル市はミュージックシティの愛称で呼ばれ、カントリーミュージックの中心地でもある。この地で制作される音楽はナッシュビル・サウンドと呼ばれ、米国でのCD制作の約50%、カントリーミュージックの90%以上がここで制作されている。

テネシー州の教育制度は義務教育が5歳児（幼稚園年長）から12年生（高等学校3年生）までであるが、カウンティー（郡）ごとに教育予算や教育内容が違っている。公立学校では授業料は無料であり、学級費やその他の経費もほとんど無料である。教科書も学校が保有し、貸し出してくれる。学習教科は英語、算数（数学）、社会、音楽、図工（美術）がある。ヒスパニック等のマイノリティーのためのELL（English Language Learner、英語を第二外国語とする児童生徒）クラスも開設されている。貧困者のためには、希望により学校登校後無料で朝食を食べられる時間も設定されている。大学の入学は共通学力試験であるSAT<sup>(註1)</sup>やACT<sup>(註2)</sup>、高校での成績の平均点であるGPT、スポーツやボランティア活動などが評価の対象になる。

今回、筆者は2005年10月、ナッシュビル市公立学校（Metropolitan Nashville Public Schools）に属するウエストミード小学校（Westmeade Elementary School）、ゲイ・ウィギンズ（Gay Wiggins）先生の音楽授業を調査する機会を得た。先生の授業は活発で生き生きとした授業展開であった。今回はこの小学校で行われている幼稚園年長から小学校4年生の音楽授業を事例研究として取り上げ、日本の総合音楽授業と比較研究を試みる。

#### 1 米国ナッシュビル市公立学校における音楽教育標準

ナッシュビル市公立学校教育標準（Metropolitan Nashville Public Schools Academic Standards）はその前文でテネシー州の教育水準の各エリア版であること、テネシー州包括評定試験〔Tennessee

Comprehensive Assessment Program (TCAP)] を目的に作成されていることが明記されている。ナッシュビル市公立学校教育標準は1994年に「全米芸術教育水準」が策定され、遅れること8年目の2001年から2002年に読解力と筆記力の各教育水準 (Reading and Writing Academic Standards)、2002年から2003年に数学と科学の各教育水準 (Mathematics and Science Academic Standards)、2003年から2004年に社会科とヒアリング及び弁論力の各教育水準 (Social Studies and Listening and Speaking Academic Standards)、そして2004年から2005年に芸術と英語学習者の各教育水準 (Visual and Performing Arts and for English Language Learners) が策定され全分野の教育水準が完成予定であったが、芸術の教育水準は2005年から2006年、英語学習者への教育水準は2006年から2007年度に遅延している。

1994年に「全米教育水準」策定後にナッシュビル市の教育水準が策定されるまでに相当の時間が経過している。これは米国の教育が各州ごと、各自治体ごとに違う教育形態を取っており、「州の数だけ別々の教育形態が存在する」と言われるほど小学校や中学校、高等学校の区切りや義務教育の範囲も様々で、教育は地域独自性が尊重されてきたことによる。また、特に南部の諸州は伝統的に地域の独自性を大切にする風潮が教育に反映されてきたことも背景にあると考えられる。

では、音楽におけるナッシュビル市の教育水準はどのように策定されているのかを考察する。以下は Grade K (幼稚園年長) から Grade 4 (小学校4年生) までの General Music (総合音楽) の教育標準の抜粋である。表1はナッシュビル市公立小学校教育水準の Grade 4 Working Draft (仕事概要)、表2は後述のナッシュビル市公立小学校教育水準の小学校総合音楽用語解説である。

Working Draft と題されたこの教育標準は、各学年ごとに (1)<sup>(註3)</sup> SKILL AND TECHNIQUE (技術と技法)、(2) CREATION AND COMMUNICATION (創造と意思疎通)、(3) CULTURAL AND HISTORIC CONNECTIONS (文化と歴史的関係)、(4) AESTHETIC AND CRITICAL ANALYSIS (美的・批評的分析)、(5) APPLICATION TO LIFE (日常生活への応用) の5領域に分類されている。そしてそれぞれの領域が各分野に分類されている。

#### 〔1〕 SKILL AND TECHNIQUE (技術と技法)

##### ①Sings a varied repertoire of music alone and with others.<sup>(註3)</sup> (様々な分野の音楽を独唱や合唱で歌う)

この分野では Grade K から Grade 4 を通して以下の項が設定されている。

- ・適正な声域で簡単な旋律とリズム型で歌う
- ・適正な声域で音程を正しく歌う
- ・歌唱技法

正しい姿勢、呼吸法、発声のポイント等、歌の表現 (Grade 3 以上)

- ・5音音階、全音階の歌唱
- ・指揮に合わせて歌う

準備拍、強拍、終止

- ・カウエン<sup>(註4)</sup> のハンドサインを用いた簡単な旋律の歌唱

##### ②Performs a varied repertoire of music on instrument(s) alone and others. (様々な分野の音楽を独奏や合奏で演奏する)

- ・音程のある打楽器（木琴、鉄琴等の鍵盤打楽器）や音程のない打楽器（ドラム等）を正しい姿勢や演奏法で演奏する
- ・鍵盤楽器の演奏
- ・リコーダー演奏（Grade 3 以上）

③Demonstrates the ability to read and notate music.（読譜や記譜能力を表明する）

- ・簡単なリズム型を言葉やボディパーカッションで示す
- ・簡単な旋律やリズム型を演奏に使用することが出来る
- ・リコーダー演奏の運指表を読むことが出来る（Grade 3 以上）

〔2〕 CREATION AND COMMUNICATION（創造と意思疎通）

①Improvises, composes, and arranges music.（即興演奏、作曲、編曲）

- ・短い歌や詩を5音音階や全音階で言葉のリズムをもとに即興演奏する
- ・与えられた音楽要素（短い詩や音物語）をもとに歌唱曲を作る
- ・繰り返しやオスティナートによる即興演奏技術の発展、進歩

〔3〕 CULTURAL AND HISTORIC CONNECTIONS（文化と歴史的関係）

①Understands and relates music to culture and history.（文化と歴史における音楽の関連性と理解）

- ・様々な音楽様式を認識する
- ・テネシー、アメリカ、他国の音楽を体験する
- ・異なる時代や文化の歌や踊りを演奏、演技する

②Recognizes, analyzes, and describes music according to style, composer, performer, or culture.（音楽の様式、作曲家、演奏家、文化による違いを認識、分析、説明する。）

- ・様々な国の特徴的音楽を探求する
- ・試聴した音（大人や子どもの声、音楽室の楽器等）による基本的音の特徴を考察する

〔4〕 AESTHETIC AND CRITICAL ANALYSIS（美的・批評的分析）

①Responds, listens, analyzes, describes, and evaluates live or recorded musical performances and compositions.（実際の演奏や録音された楽曲に対して対応、鑑賞、分析、説明、再評価する）

- ・口頭で示された音楽的要素（テンポ、強弱等）について話し合う
- ・音楽様式（二部形式、三部形式、ロンド、主題と変奏等）の認識
- ・オーケストラ楽器の種類
- ・演奏形式（独奏、重奏、声楽、器楽等）の認識
- ・様々な音楽スタイル（行進曲、子守歌、民謡、ワルツ、ブルース等）を鑑賞する
- ・演奏された音楽の批評等について話し合う（Grade 4）

〔5〕 APPLICATION TO LIFE（日常生活への応用）

①Understands and relates music to other studies and life experiences.（他教科や生活体験に音楽が結びついていることを理解する）

- ・音楽と子ども文学との結びつき
- ・楽器を使用しての音の科学を図示、説明する

- ・音楽が日常生活にどのように使用されているか探求する
- ・学校においてどのような音楽プログラムが使用されているか気付く
- ・音楽においてどのような技術やコンピューターソフトが可能か探求する

## 2 日本の学習指導要領との比較

前項ではこの5領域において全学年の特徴的な事柄を抜粋した。全体を俯瞰するとこの内容は文字通り仕事概要 (Working Draft) であり、音楽科全体に関わる考え方についてさらなる説明が必要である。日本の小学校学習指導要領と比較すると、まず「教科の目標」として「音楽科の目標」が設定され、次に「各学年の目標」があり次に「音楽科の内容」が示されている。このナッシュビル市公立学校教育標準 (Metropolitan Nashville Public Schools Academic Standards) は日本における小学校学習指導要領の「音楽科の内容」と比較される部分である。その内容は以下の通りである。

小学校学習指導要領の音楽科における内容の領域構成は、「A表現」、「B鑑賞」の2領域となっている。そして、それぞれの領域指導項目は、各学年とも「身に付ける能力」と「取り扱う教材」とに内容を括って示している。「表現」領域と「鑑賞」領域の指導項目については、次のような構成で区分してある。

### 〔A表現〕

(1) 音楽を聴いたり楽譜を見たりして演奏出来るようにする。

- ・「楽譜を見たりして」は第3学年以降

この項目は、豊かな音楽活動をするための基礎となる聴唱や聴奏及び視唱や視奏など能力について示したものである。音楽を聴いて心を動かされ、自分もそのように演奏したいという欲求が生まれることは、音楽表現の出発点であり、そのためにも、「聴いて演奏する」、「楽譜を見て演奏する」と言った基礎的な能力をしっかりと身に付けていく必要があることを内容としている。これは前項のナッシュビル市公立学校教育標準においては〔1〕SKILL AND TECHNIQUE (技術と技法) の①～③に対応する部分である。

(2) 曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、工夫して表現出来るようにする。

- ・「曲想」は第1・2学年では「楽曲の気分」となる

この項目は、楽曲全体に流れる曲想を感じ取ったり、音楽の構成や音楽を特徴付けている要素を感じ取ったり、歌詞の内容を理解したりして、音楽を工夫して表現する能力について示したものである。音楽を特徴付けている要素であるリズム、旋律、フレーズ、音色、強弱、速度、和声などについて鋭く感じ取るとともに、それらの相互のかかわりを大事にすることを内容とする。これは前項の〔4〕AESTHETIC AND CRITICAL ANALYSIS (美的・批評的分析) と対応する。

(3) 歌い方や楽器の演奏の仕方を身に付けるようにする。

この項目は、音楽の表現に必要な歌唱や器楽の演奏技能を身に付けることについて示したものである。豊かに音楽を表現して楽しむためには、歌い方や楽器の演奏について徐々にしかも確実に身に付けることが重要であることを内容とする。これは前項の〔1〕SKILL AND TECHNIQUE (技

術と技法)、及び〔2〕CREATION AND COMMUNICATION (創造と意思疎通) と対応する部分である。

(4) 音楽をつくって表現出来るようにする。

この項目は、子どもが自ら音楽をつくって表現する能力について示したものである。音楽を通して自己を豊かに表現する活動を活発に行うようにするためには、既存の作品を演奏したり鑑賞する活動に加え、子ども一人一人が創意工夫し自分自身の音楽を創り出そうとする工夫が重要であることを内容とする。これは前項の〔2〕CREATION AND COMMUNICATION (創造と意思疎通) と対応する部分である。

(5) 表現教材は次に示すものを取り扱う。

・ 共通教材とその観点が各学年にわたり示されている。

ナッシュビル市公立学校教育標準 (Metropolitan Nashville Public Schools Academic Standards) では、前項の仕事概要 (Working Draft) にほかに全学年共通の総合音楽用語解説 (General Music Glossary) が示されている。日本の学習指導要領に示されている具体的な楽曲はないが、教師がその詳細な説明に従って各学年や段階にあった教材を選択することになる。

〔B鑑賞〕

(1) 音楽を聴いてそのよさや美しさを感じ取るようにする。

・ 「美しさ」は第1・2学年では「楽しさ」とし、第5・6学年では「感じ取る」は「味わう」とする。

この項目は、音楽を聴いてそのよさや美しさを感じ取ったり、味わったりする能力の育成について示したものである。芸術作品の価値や意味を理解し、味わうためには音楽を聴いて様々なよさや特徴を感じ取ることが出来なくてはならない。これら「曲想」「要素・構成」「表現媒体」の観点を通して育てられるものであることを内容とする。これは前項の〔4〕AESTHETIC AND CRITICAL ANALYSIS (美的・批評的分析) と対応する。

(2) 鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。

・ 共通教材とその観点が各学年にわたり示されている。

この項目では鑑賞教材を選択する場合の観点について示してあるが、ナッシュビル市の教育標準では、前述の総合音楽用語解説 (General Music Glossary) に当たる部分である。

ナッシュビル市公立学校教育標準と日本の小学校学習指導要領とを比較すると、ナッシュビル市の教育水準は比較的詳細に記述されているが、音楽では具体的な楽曲の例や指定された教科書はなく、教師の自由裁量が大幅にある。日本でも現場の自由裁量部分は増大しているが、音楽においては教育時間数の削減や国定教科書を使用することにより、教師の裁量による授業時間は少ないと言える。小学校学習指導要領には第1章総則において教育課程編成の一般方針、第2章各教科、第6節音楽、第1においてその教科の目標、第2において各学年ごとの1目標、2内容が示されており、明確に指針を定めている。ナッシュビル市公立学校教育標準では、詳細な音楽に関する目標や指針と呼べるものはなく、5領域に関してもどのような経緯で策定されたものかは、判然としない。このことはアカウンタビリティーからも考えるべきである。

### 3 ナッシュビル市公立学校教育標準の特徴

ナッシュビル市公立学校教育標準 (K-4) では、ジョン・カウエン<sup>(註4)</sup> のハンドサインによるソルフェージュと移動ド唱法を取り入れていることが特徴である。これらを以下に表す。

表1 ナッシュビル市公立小学校教育水準のソルフェージュ

	ハンドサイン	移動ド唱法
Grade K	ミ・ソ・ラ (上1点)	ミソラを含む簡単な5音階曲
Grade 1	ド・ミ・ソ・ラ (上1点)	ドミソラを含む簡単な5音階曲のソルフェージュ
Grade 2	ド・レ・ミ・ソ・ラ (上1点)	ドレミソラを含む5音階曲のソルフェージュ
Grade 3	ソ・ラ・ド・レ・ミ・ ソ・ラ・ド	ソラ (カタカナ)、ドレミソラ (上1点)、ド (上2点) への伸張した5音階曲のソルフェージュ
Grade 4	*教育水準に示されていない	Grade 3 の伸張したソルフェージュによる、5音階曲の歌唱

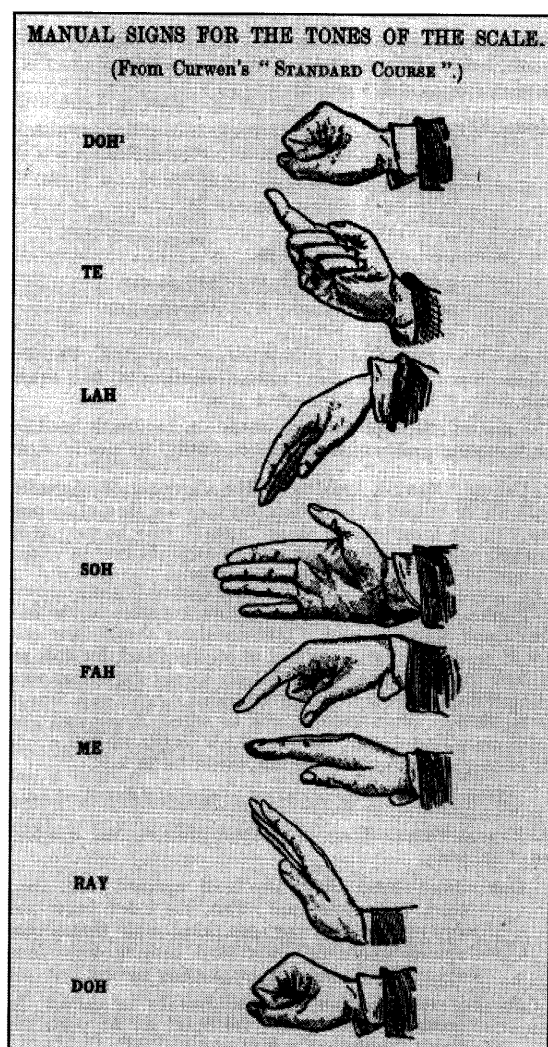


図1 カウエンのハンドサイン<sup>(註5)</sup>

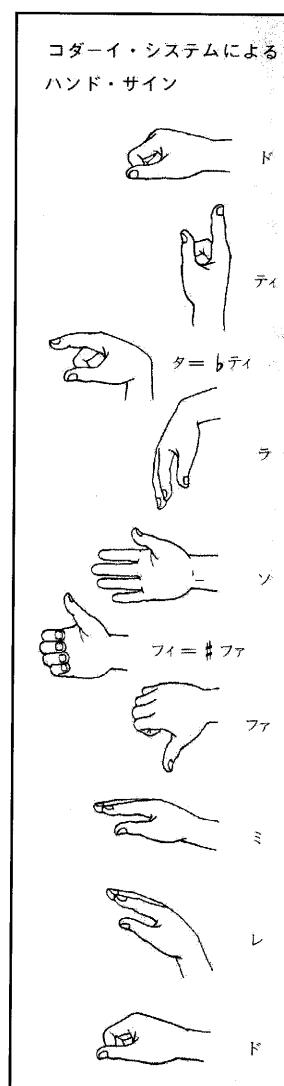


図2 コダーイシステムによるハンドサイン<sup>(註6)</sup>

(表1) ナッシュビル市公立学校教育標準 (\* Grade 4 仕事概要)

Working Draft		General Music		Metropolitan Nashville Public Schools	
SKILL AND TECHNIQUE	CREATION AND COMMUNICATION	CULTURAL AND HISTORIC CONNECTIONS	AESTHETIC AND CRITICAL ANALYSIS	APPLICATIONS TO LIFE	
<ul style="list-style-type: none"><li>• <i>Sings a varied repertoire of music alone and with others.</i></li><li>• Sings with melodic and rhythmic accuracy in an appropriate range.</li><li>• Matches pitch in an appropriate range.</li><li>• Demonstrates a basic knowledge of vocal techniques.<ul style="list-style-type: none"><li>◦ Correct posture</li><li>◦ Breath control</li><li>◦ Appropriate tone production</li><li>◦ Proper vowel production and placement</li></ul></li><li>• Stylistic expression<ul style="list-style-type: none"><li>◦ Tempo modifications</li><li>◦ Articulations</li><li>◦ Dynamics</li></ul></li><li>• Sings pentatonic songs using <i>sofège</i> with moveable <i>do</i>, including extension.</li><li>• Recognizes basic conducting techniques.<ul style="list-style-type: none"><li>◦ Prep beat</li><li>◦ Downbeat</li><li>◦ Pick up</li><li>◦ Dynamic cues</li><li>◦ Cut-offs</li><li>◦ Entrance cues</li></ul></li><li>• Responds appropriately to the cues of the conductor.</li><li>• Demonstrates conducting patterns in duple and triple meter.<ul style="list-style-type: none"><li>◦ Round/canons</li><li>◦ Three-part partner songs</li><li>◦ Simple descants</li><li>◦ <i>Orinzi</i></li></ul></li><li>• Sings songs representing various styles, genres, and cultures. (e.g., patriotic, folk, spiritual, work songs, world songs, seasonal, state songs, and ballads)</li><li>• Sight-sings simple melodies.<ul style="list-style-type: none"><li>◦ Sight-sings simple rhythm patterns.</li></ul></li><li>• <i>Performs a varied repertoire of music on instrument(s) alone and with others.</i><ul style="list-style-type: none"><li>◦ Plays classroom instruments with appropriate posture, playing position and technique.<ul style="list-style-type: none"><li>◦ Recorder (B, A, G, E, D, high D, and high C)</li><li>◦ Pitched and unpitched percussion (accompaniment and/or melodies)</li><li>◦ Keyboards</li></ul></li><li>◦ Demonstrates the ability to play simple rhythmic patterns.</li><li>◦ Demonstrates the ability to play simple melodic patterns.</li><li>◦ Plays all forms of bodun accompaniments.</li><li>◦ Handles musical instruments appropriately.</li><li>◦ Uses body percussion to practice, perform, and create rhythms.</li><li>◦ Practices and performs in groups blending instrumental timbres and matching dynamic levels.</li><li>◦ Practices and performs independent instrumental parts while other students sing or play contrasting parts.</li><li>◦ Sight-plays simple melodies.</li><li>◦ Sight-plays simple rhythm patterns.</li></ul></li><li>• <i>Demonstrates the ability to read and notate music.</i><ul style="list-style-type: none"><li>◦ Interprets a basic fingering chart for a recorder.</li><li>◦ Demonstrates recognition of simple rhythm patterns. (whole notes/rests, dotted half notes, half notes/rests, quarter notes/rests, eighth notes/rests, and sixteenth notes)</li><li>◦ Uses traditional notation in the treble clef for reading and writing rhythms and melodies.</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <i>Improvises, composes, and arranges music.</i><ul style="list-style-type: none"><li>◦ Improvises rhythmic and melodic variations.</li><li>◦ Improvises chordal accompaniments.</li><li>◦ Creates a four-phrase composition in ternary form.</li><li>◦ Creates a simple arrangement of a familiar song (introduction, interlude and coda).</li><li>◦ Creates a simple written and/or oral composition using given parameters.</li><li>◦ Creates and improvises <i>orinzi</i> with a given melody and accompaniment.</li><li>◦ Uses a variety of sound sources when composing.</li><li>◦ Creates pentatonic melodies using question and answer technique on instruments.</li><li>◦ Creates movement or body percussion to two-measure notated patterns.</li><li>◦ Improvises through purposeful movement to musical stimuli.</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <i>Understands and relates music to culture and history.</i><ul style="list-style-type: none"><li>◦ Identifies musical genres.</li><li>◦ Discusses the correlation of events, composers, and music from various historical periods and cultures.</li><li>◦ Experiences and identifies music of Tennessee, United States of America, and other countries. (See Social Studies Standards.)</li><li>◦ Demonstrates skills in singing games and folk dancing from a variety of cultures.</li><li>◦ Explores the contribution of other cultures to the origins of American music.</li><li>◦ Sings songs representing a variety of cultures using English and non-English texts.</li><li>◦ <i>Recognizes, analyzes, and describes music according to style, composer, performer, or culture.</i><ul style="list-style-type: none"><li>◦ Recognizes idiomatic characteristics of music from various cultures.</li><li>◦ Compares and contrasts the significant musical elements in various styles of music.</li></ul></li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <i>Responds, listens, analyzes, describes, and evaluates live or recorded musical performances and compositions.</i><ul style="list-style-type: none"><li>◦ Discusses specific musical elements in a given aural example using appropriate terminology.</li><li>◦ Recognizes form in music (AB, ABA, rondo, theme and variations).</li><li>◦ Identifies introduction, interlude and coda.</li><li>◦ Classifies orchestral instruments and corresponding families from visual and aural examples.</li><li>◦ Identifies solo, duet, trio, and quartet, vocally and instrumentally.</li><li>◦ Listens to and recognizes a variety of musical styles and genres.<ul style="list-style-type: none"><li>◦ March</li><li>◦ Lullaby</li><li>◦ Folk songs</li><li>◦ Spirituals</li><li>◦ Cowboy songs</li><li>◦ Work songs</li><li>◦ Sea chants</li><li>◦ Patriotic songs</li><li>◦ Waltzes</li><li>◦ Blues</li><li>◦ Broadway songs</li><li>◦ World songs</li><li>◦ Classical music</li></ul></li><li>◦ Uses a rubric to critique and discuss the quality and effectiveness of music and musical performances.</li><li>◦ Develops oral and written skills in analyzing music, using specific guidelines. (Writing Standards connection)</li><li>◦ Explores the elements used to create images or evoke emotions in musical works.</li><li>◦ Recognizes major and minor scales and the major or minor tonalities in musical selections.</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <i>Understands and relates music to other studies and life experiences.</i><ul style="list-style-type: none"><li>◦ Connects music and language arts through children's literature.</li><li>◦ Illustrates and explains the science of sound through the use of musical instruments.</li><li>◦ Explores ways in which music is used in everyday life.</li><li>◦ Examines ways in which the principles of math interrelate with those of music.</li><li>◦ Demonstrates appropriate audience behavior for the context and style of music being performed.</li><li>◦ Explores opportunities to support the musical community and the community as a whole.</li><li>◦ Explores a variety of careers related to music.</li><li>◦ Identifies music programs and resources in the community. (i.e., MNPS Arts in Action Camp, MET Singers Camp, W. O. Smith Community Music School, Metro Summer Strings Camp, Nashville Symphony, Country Music Hall of Fame and Museum, Parthenon, Renaissance Center, etc.)</li><li>◦ Uses available technology and understands its application to music (accessibility to computers, Smart boards, software, and piano labs).</li></ul></li></ul>	

(表2) ナッシュビル市公立学校教育標準 (\* 小学校総合音楽用語解説)

## General Music Glossary

<p><b>AB form (binary)</b> - a musical selection with two distinct sections.</p> <p><b>ABA form (ternary)</b> - a form consisting of three sections: the first section is followed by a contrasting section and then by an exact or nearly exact repeat of the first section.</p> <p><b>allegro (li.)</b> - fast, lively</p> <p><b>andante (li.)</b> - moderate tempo</p> <p><b>appropriate range</b> - span of vocally produced notes for a certain age</p> <p><b>kindergarten</b> - middle C to A above</p> <p><b>first grade</b> - middle C to B flat above</p> <p><b>second grade</b> - B flat below middle C to C octave</p> <p><b>third grade</b> - B flat below middle C to top space E</p> <p><b>arrangement</b> - adaptation of an existing composition.</p> <p><b>articulation</b> - a term used to denote clarity and distinction in musical performance.</p> <p><b>blues</b> - a somewhat wistful American ballad of African-American origins, in 4/4 time, with a melody characterized by lower third and seventh ("blue") notes. It has a stereotypical twelve-measure harmonic pattern.</p> <p><b>body percussion</b> - the use of the body to create unpitched sounds (pat, clap, snap, and stomp).</p> <p><b>borderline accompaniment</b> - an instrumental part based on the open fifth interval and variations constructed from it, which accompany a melody.</p> <p><b>brass</b> - a family of wind instruments with funnel-shaped mouth pieces that includes: trumpet, French horn, trombone, baritone horn, and tuba.</p> <p><b>breath control</b> - the use of abdominal or diaphragmatic breathing to inhale the necessary amount of air without tightening the throat muscles in order to produce the best tone.</p> <p><b>broadway song</b> - a selection from a Broadway musical.</p> <p><b>call and response</b> - a musical selection in which separate groups of performers alternate or respond to each other.</p> <p><b>calling</b> - a loud voice used to acquire the attention of others.</p> <p><b>canon</b> - the strictest form of musical imitation, in which two or more parts take up, in succession, a given subject note for note.</p> <p><b>choral accompaniments</b> - instrumental parts based on three or more tones sounded simultaneously which accompany a melody.</p> <p><b>classical</b> - "serious" or "art" music as opposed to popular or folk music.</p> <p><b>coda</b> - an ending section of a composition or movement.</p> <p><b>composition</b> - process of creating musical works.</p> <p><b>conducting techniques</b> - working methods which a musical conductor uses to communicate with musicians.</p> <p><b>correct posture</b> - standing erect with weight evenly distributed on the balls of both feet while singing or playing. When seated, the singer/instrumentalist should sit erect on the front portion of the chair with feet flat on floor.</p> <p><b>cowboy song</b> - a work song sung by cowboys and cowgirls.</p> <p><b>cue</b> - a signal used by the conductor to indicate or emphasize an entrance or important musical element.</p> <p><b>curwen hand signs</b> - hand signs associated with Kodály pedagogy.</p> <p><b>cut-off</b> - the motion of the conductor's hands, which indicates the end of a phrase or musical selection.</p> <p><b>diatonic</b> - a high obligatory part above the melody.</p> <p><b>diatonic</b> - by, through, with, within, or embracing the tones of the standard major or minor scale.</p> <p><b>downbeat</b> - the downward motion of the conductor's hand, which indicates the first beat of a measure.</p> <p><b>duet</b> - a composition for two performers of equal importance, with or without accompaniment.</p> <p><b>duple meter</b> - two beats to a measure.</p> <p><b>dynamics</b> - various degrees of volume.</p> <p><b>fingering chart</b> - a pictograph representing the placement of the fingers on an instrument.</p>	<p><b>folk songs</b> - music of a specific region passed down orally from generation to generation.</p> <p><b>form</b> - organization and structure of a composition.</p> <p><b>forte (li.)</b> - loud and strong</p> <p><b>found sounds</b> - music produced by nontraditional instruments.</p> <p><b>genre</b> - a category of music distinguished by a definite style, form, or content.</p> <p><b>graphic notation</b> - a method of writing down music (pitch, rhythm, dynamics, etc.) using traditional or nontraditional symbols or characters.</p> <p><b>improvisation</b> - music that is created spontaneously.</p> <p><b>interlude</b> - a short musical piece inserted between the parts of a longer composition.</p> <p><b>introduction</b> - a preparatory section at the beginning of a composition or movement.</p> <p><b>keyboard lab</b> - a computerized system of individual piano keyboards monitored by a teacher controlled workstation.</p> <p><b>large (li.)</b> - very slow and stately</p> <p><b>legato (li.)</b> - smooth and connected</p> <p><b>lullaby</b> - a vocal or instrumental cradle song.</p> <p><b>major tonality</b> - music based on a major scale.</p> <p><b>manipulatives</b> - objects used kinesthetically for demonstrating and understanding concepts.</p> <p><b>march</b> - composition in duple or quadruple meter used for marching.</p> <p><b>meter</b> - symmetrical grouping of musical rhythms.</p> <p><b>minor tonality</b> - music based on a minor scale.</p> <p><b>moveable-do</b> - a system where the first note of any diatonic scale is called "do".</p> <p><b>musical elements</b> - rhythm, melody, harmony, timbre, and form</p> <p><b>ostinato</b> - rhythmic or melodic patterns that are repeated.</p> <p><b>partner song</b> - two or more independent melodies occurring together.</p> <p><b>patriotic song</b> - a musical selection showing love and support for one's country.</p> <p><b>pentatonic</b> - a 5-tone scale, which usually avoids semitonic steps by skipping the fourth and seventh degrees in major, and the second and sixth in minor.</p> <p><b>percussion</b> - instruments that are struck, scraped, or shaken to create a definite or indefinite pitch that include: drum, cymbals, tambourine, bells, triangle, piano, etc.</p> <p><b>phrase</b> - a complete musical idea.</p> <p><b>piano (li.)</b> - soft</p> <p><b>pick-up</b> - a fractional measure beginning a movement, piece, or theme.</p> <p><b>pitch</b> - the position of a tone in the musical scale.</p> <p><b>preparatory beat</b> - the first gesture by the conductor conveying the tempo, energy, style, and mood in advance of the first sounded note.</p> <p><b>proper etiquette</b> - code of behavior or courtesy used while performing or attending a performance.</p> <p><b>purposeful movement</b> - expressive movement created within parameters that reflects the musical style being studied.</p> <p><b>quartet</b> - a composition for four performers of equal importance, with or without accompaniment.</p> <p><b>repertoire</b> - collection of musical selections</p> <p><b>rhythmic patterns</b> - series of notes and rests of varying durations.</p> <p><b>rondo</b> - a musical form characterized by a repeated theme that alternates with other themes.</p> <p><b>round</b> - a kind of vocal canon at the unison, without code, sometimes with an harmonic support or accompaniment.</p> <p><b>rubric</b> - a scoring guide providing specific descriptors for each category.</p> <p><b>sea chantey</b> - a work song sung by sailors.</p> <p><b>semitonic</b> - a half step.</p> <p><b>solfège</b> - syllables (do, re, mi, fa, sol, la, ti) assigned to notes for the purpose of vocal exercise.</p> <p><b>solo</b> - a composition for one performer, with or without accompaniment.</p>	<p><b>special occasion song</b> - a musical selection used for a celebration.</p> <p><b>spirituals</b> - a religious song, cultivated by African-American slaves.</p> <p><b>succinct (li.)</b> - short and detached</p> <p><b>steady beat</b> - an unwavering pulse throughout the music.</p> <p><b>strings</b> - a family of instruments whose sound is created by bowing, plucking, or striking a stretched string that includes: violin, viola, cello, double bass, harp, guitar, dulcimer, etc.</p> <p><b>stylistic expression</b> - the manner in which a musical selection is performed as it relates to the compositional characteristics.</p> <p><b>tempo</b> - a rate of speed.</p> <p><b>theme and variations</b> - a form of composition in which the principal theme is clearly and explicitly stated at the beginning, and is then followed by a number of variations.</p> <p><b>timbre</b> - tone color or quality.</p> <p><b>tonal patterns</b> - series of pitches abstracted from a melody containing steps, skips, and/or repeated notes.</p> <p><b>tone production</b> - the production of a definite pitch and placement of the tone in the natural resonating chambers: larynx, pharynx, mouth, and nasal cavity.</p> <p><b>treble clef</b> - symbol centered on the second line of the staff to indicate the position of G above middle C.</p> <p><b>trio</b> - a composition for three performers of equal importance, with or without accompaniment.</p> <p><b>triple meter</b> - three beats to a measure.</p> <p><b>vocalic sounds</b> - pertaining to or having the nature of a vowel or vowels.</p> <p><b>vowel production and placement</b> - the placement and production of vocalic sounds (a, e, i, o, u, and sometimes y) in order to produce a round tone, which is achieved by relaxing the jaw and tongue to provide adequate room in the mouth.</p> <p><b>waltz</b> - a round dance in ¾ time originating in the late 18<sup>th</sup> century.</p> <p><b>windwinds</b> - a family of wind instruments that includes: recorder, piccolo, flute, oboe, English horn, bassoon, clarinet, and saxophone.</p> <p><b>work song</b> - a historically significant form of music created by workers to make manual labor less stressful or monotonous.</p> <p><b>world music</b> - musical selections from various cultures.</p>
---	---	--



この他に Grade 3 から全音階による歌唱も実施するように示されている。この表では、各発達段階での実施内容が細かく規定されている。ハンドサインは幼児教育に有効とされ、各国でソルフェージュに採用されている。手の動きを声と連動させることにより歌唱による音階練習が、さらに効果的に実施出来る。

表1、2にナッシュビル市公立学校教育水準の仕事概要（Working Draft）と小学校総合音楽用語解説（General Music Glossary）を示す。仕事概要は紙面の関係で Grade 4 のみを示す。仕事概要は各領域において詳細な記述があるが、概念的には音楽と社会、日常生活、歴史、文化等を関連付けて学習する考え方が日本の学習指導要領と差異がある。日本ではまず音楽教科は外国音楽を学習するために存在したのであり、当初からそれを自国の文化と関連付けて学習する姿勢がなかったことが大きい。また、日本音楽は所謂、大人の音楽であり、子ども達が学習するのには適さないという当時の判断も推測される。

この仕事概要がナッシュビル市教育委員会から提示されたのは2004年9月であり、今後まだ改訂する余地は多分にある。教師にとってはこれらを1学習年度で全てを実施出来るかは不透明である。しかし、今まで各教師ごとに教育目標を定めていたことを考えると、共通の到達目標が示されたことに重要な意味がある。

#### 4 ナッシュビル市ウエストミード小学校の音楽授業

##### （1）ウエストミード小学校（Westmeade Elementary School）

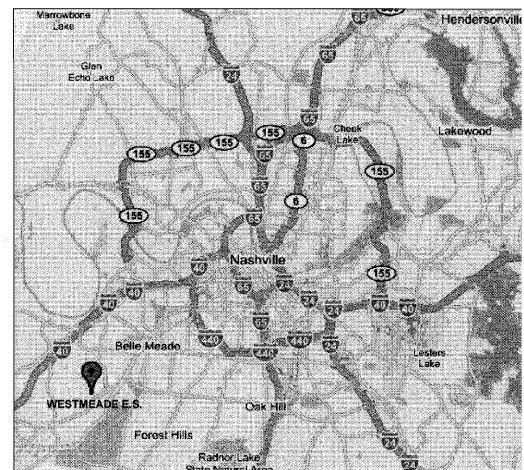
ウエストミード小学校は図3の印にあるように、ナッシュビル市南西方向に約15kmほど郊外にあり、ナッシュビル市公立学校（Metropolitan Nashville Public Schools）に所属する小学校である。公開された資料によると<sup>（註7）</sup>児童数、学級数、教職経験年数、学位取得者は以下の通りで、約半数が10年以上の教職経験があり、ほとんど移動がない。また、学位は修士以上取得者が6.6割になっている。これは学位により給与格差が大きいことが要因の一つである。

また、平均のクラスあたりの児童数は18人前後であり、学校規模としてはナッシュビル市の平均的な小学校である。

公開された学校に関する資料（表3-②）による2004

公開された学校に関する資料（表3-①）

児童数399人（2005年9月現在）	
学級数（2005年9月現在）	
Grade K …… 4 クラス	Grade 3 …… 4 クラス
Grade 1 …… 3 クラス	Grade 4 …… 4 クラス
Grade 2 …… 5 クラス	
教職経験年数	学位取得者
0-3年 …… 26%	学士 …… 34%
4-9年 …… 29%	修士 …… 37%
10-20年 …… 34%	修士以上 …… 24%
21+年 …… 11%	博士 …… 5%



（図3）ナッシュビル市近郊図

年度における児童の人種構成は、マジョリティーである白人は53.1%であり、年度ごとに減少しているが、マイノリティーである黒人は37.1%で増加傾向である。そして、昨年9月に訪問したニューヨーク市のクィーンズ地区第148小学校では、ヒスパニックが8割を超えていたが、ウエストミード小学校では、ナッシュビル市の都市圏内に入るが、ヒスパニックの割合は4.5%である。2000年の米国国勢調査<sup>(註8)</sup>でもナッシュビル市の人口に占めるヒスパニックの割合は4.6%である。マジョリティーである白人の郊外への人口流出が顕著であるニューヨーク市等の大都市と比較してもナッシュビル市の白人人口は65.1%で、まだマジョリティーとしての地位は保っていると言える。しかし今後、この割合は他の大都市と同様に減少傾向にあり、ヒスパニック系人口が増加しなければ、マジョリティーの郊外移動により人口減少に繋がるおそれもある。表3-②では、2004-2005年において昼食の無料または減額措置の児童 (Free/Reduced Price Lunch Program Participation, ※印) が児童数の45.1%になり、年度ごとに増加していることもマイノリティーが増加していることと関連性がある。停学処分を受けた子どもの数 (Students Suspended Out-of-School, ※印) においてもマイノリティーであるBlackの数が突出していることがわかる。

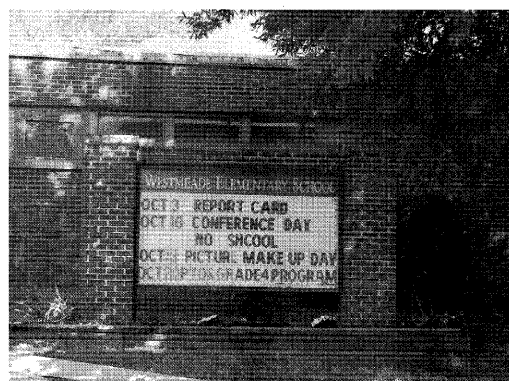
表3-③のテネシー州の公的共通学力試験であるTCAP (Tennessee Comprehensive Assessment Program) では人種別の達成度が示されている。それによると黒人の数学における達成度が低いことが目立つ、ただし2004-2005年ではいずれも向上している。

## (2) ゲイ・ウィギンズ先生の音楽授業事例

ゲイ・ウィギンズ先生は、ウエストミード小学校の音楽専科担当の先生である。専門は声楽であるが、特殊教育学校に18年携わり、その後ウエストミード小学校の音楽専科となった。現在は8年目である。ゲイ先生はシャーリー・ハンディ (Shirley Handy) 女史の教授理論<sup>(註9)</sup>を実践している先生である。ゲイ先生の時間割 (表4) は以下の通りであるが、各時限後の休憩時間がなく、火曜日の5時限目を除き全ての時間が授業である。また、60分が1時限であり、日本の小学校で実施されている音楽専科教師の平均的時間割と比較して過密である。ただし、授業時間以外は比較的自由である。時間割には各クラス担任の名前が記載され、金曜日は音楽選択児童の合同授業である。この時間割で時限ごとの休憩時間はない。教室の移動はクラス担任が音楽室まで出向き、教室間を誘導する仕組みになっている。ゲイ先生は時折、クラス担任にその時間の子ども様子を報告する場面も見られた。前述の通り各クラスは18人前後であり、子どもの健康状態や心の動きを把握するこ



(写真1) ウエストミード小学校正面①



(写真2) ウエストミード小学校正面②

とが容易である。

(表 3-②) ウエストミード小学校の公開学校情報

## 2005-2006 School Improvement Plan Information Form Westmeade Elementary School (K-4)

School information for grades K-12			2001-2002	2002-2003	2003-2004	2004-2005
School Grades			K-4	K-4	K-4	K-4
Enrollment			473	446	439	399
% Female			46.7%	45.5%	47.2%	41.9%
% Male			53.3%	54.5%	52.8%	58.1%
% Asian			7.6%	5.6%	6.2%	4.0%
% Black			26.8%	32.1%	34.4%	37.1%
% Hispanic			4.9%	4.9%	4.6%	4.5%
% American Indian			.2%	.7%	.2%	1.3%
% White			60.5%	56.7%	54.7%	53.1%
% Free/Reduced Price Lunch Program Participation ※			35.7%	38.1%	42.1%	45.1% ※
% English as Second Language Program Participants			6.1%	2.9%	.2%	.3%
% Special Education (4+ hours)			8.2%	8.3%	8.9%	10.5%
% School Attendance (Target=98%)			95.9%	95.1%	95.2%	95.2%
% Students in Attendance 95%			66.6%	61.9%	58.8%	57.9%
Mobility Rate (Entries & Exits after 2 <sup>nd</sup> week as % of Enrollment)			31.3%	40.4%	36.0%	40.4%
% Promoted			96.9%	97.3%	97.4%	98.0%
% NCLB “On-Time” Graduation Rate						
% Competent on TCAP Writing Assessment**			81.3%			
% Competent on District Writing Assessment			N/A	N/A	48.9%	55.7%
Senior’s Mean Composite ACT						
% Students Suspended Out-of-School			8.2%	6.3%	7.5%	7.0%
Students Suspended Out-of-School ※			39	28	33	28
	Sex	Male	27	25	31	19
		Female	12	3	2	9
	Race	Black	19	21	23	22
		White	18	6	9	5
		Other	2	1	1	1
Incidents of Out-of-School Suspensions per Student			.12	.09	.12	.12
Incidents of Out-of-School Suspensions			56	42	53	48
	Sex	Male	36	38	51	36
		Female	20	4	2	12
	Race	Black	30	34	41	40
		White	24	7	11	6
		Other	2	1	1	2
Letter Grade Distribution		% D’s				
		% F’s				
TCAP Gateway Test results % passed	Math (Algebra I)	Among test takers				
		By 9 <sup>th</sup> grade				
	Science (Biology I)	Among test takers				
		By 10 <sup>th</sup> grade				
	English (English II)	Among test takers				
		By 10 <sup>th</sup> grade				
% Proficient TCAP Achievement Reading/Language			N/A	N/A	81.1	88.9
% Proficient TCAP Achievement Math			N/A	N/A	79.4	83.6

(表3-③) ウエストミード小学校の公開学校情報

## 2005-2006 School Improvement Plan Information Form Westmeade Elementary School (K-4)

% Proficient TCAP Achievement Reading/Language - Female	N/A	N/A	88.6	89.9
% Proficient TCAP Achievement Math - Female	N/A	N/A	79.7	84.1
% Proficient TCAP Achievement Reading/Language - Male	N/A	N/A	75.2	88.2
% Proficient TCAP Achievement Math - Male	N/A	N/A	79.2	83.3
% Proficient TCAP Achievement Reading/Language - Asian	N/A	N/A	100.0	90.9
% Proficient TCAP Achievement Math - Asian	N/A	N/A	100.0	81.8
% Proficient TCAP Achievement Reading/Language - Black	N/A	N/A	63.5	83.6
% Proficient TCAP Achievement Math - Black	N/A	N/A	61.9	69.1
% Proficient TCAP Achievement Reading/Language - Hispanic	N/A	N/A	*	80.0
% Proficient TCAP Achievement Math - Hispanic	N/A	N/A	*	80.0
% Proficient TCAP Achievement Reading/Language - American Indian	N/A	N/A		*
% Proficient TCAP Achievement Math - American Indian	N/A	N/A		*
% Proficient TCAP Achievement Reading/Language - White	N/A	N/A	88.8	92.4
% Proficient TCAP Achievement Math - White	N/A	N/A	88.8	92.4
% Proficient TCAP Achievement Reading/Language - FRL Participants	N/A	N/A	67.1	81.3
% Proficient TCAP Achievement Math - FRL Participants	N/A	N/A	63.3	69.3
% Proficient TCAP Achievement Reading/Language - FRL Nonparticipants	N/A	N/A	92.1	94.8
% Proficient TCAP Achievement Math - FRL Nonparticipants	N/A	N/A	92.1	94.8

(\*は対象児童数が7人未満のため、プライバシー上の観点から公表されていない。)

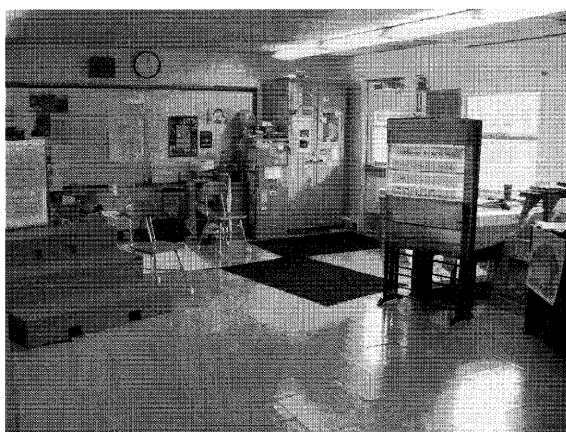
(表4) ゲイ先生の時間割

		月	火	水	木	金
8:30- 9:30	Grade 2	Noit	Owen	Burgelt	Griffin	Noit・Owen
9:30-10:30	Grade 3	Kauffman	Kleinroch	Bryan	Jones	Kauffman・Kleinroch
10:30-11:30	Grade 4	Wachs	Meyers	Bond	Hollobaugh	Wachs・Meyers
11:30-12:30		L	U	N	C	H
12:30-13:30	Grade K	Newbill	Silva	Crowe	Merideth	Newbill・Silva
13:30-14:30	Grade 1	Mazer	OPEN	Crump	Housman	Crump

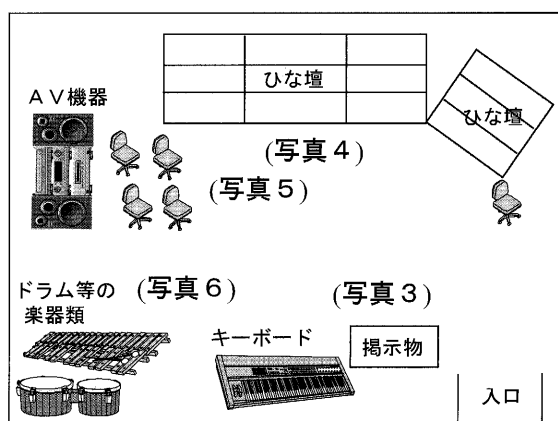
### (3) 授業の実際

2005年9月26日(月)から27日(火)の2日間、ナッシュビル市立ウエストミード小学校のゲイ・ウィギンズ先生の音楽授業を参観することが出来た。音楽授業の形態は総合音楽 (General Music) である。米国の新学期は9月初旬からであるので、授業は3週目に入ったところであった。初日はこの小学校を紹介していただいたアラン・カックス (Allan Cox) 教授<sup>(註10)</sup>に同行してもらった。午前8時前後の通学時間帯に到着したが、警察車両が2台待機し、小学校のロビーには警察官が見守っていた。米国は普通の光景であるが、現況では今後日本でも、さらにセキュリティ対策を真剣に考えていく必要がある。小学校の受付で程なくゲイ先生と面会した。明るく陽気な雰囲気を持つ先生であった。以下は授業の事例である。事例は第1日目の授業を時系列ごとに記述した。

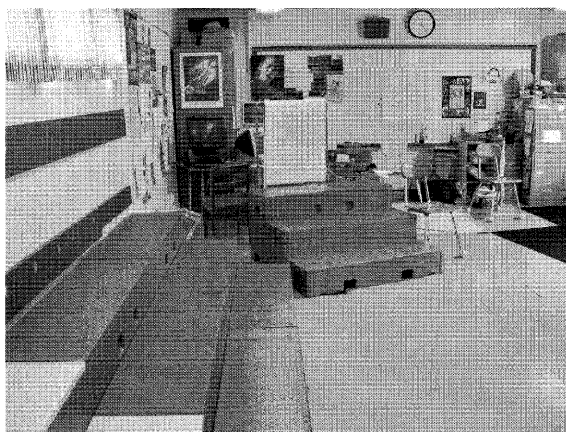
音楽室は見かけ上、平均的な日本の音楽教室の半分ほどの広さである。机はなく、子どもはひな



(写真3) 音楽室 A



(図4) 音楽室見取り図



(写真4) 音楽室 B



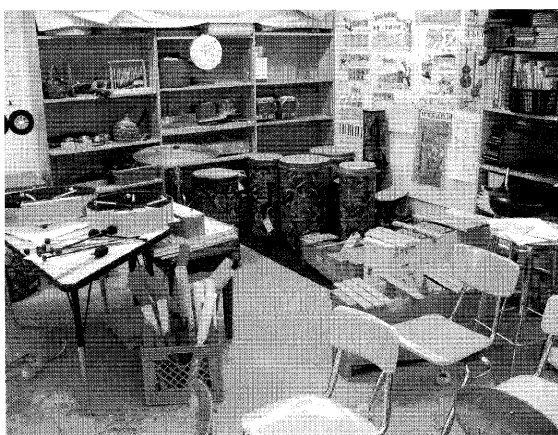
(写真5) 音楽室 C

壇に座る。子どもが座ると正面にキーボードがあり、後述の言語訓練に使用する掲示物がある。子どもはひな壇だけでなくひな壇横の椅子にも座り、移動は自由である。至る所に掲示物があり、子どもは所狭しと置かれたものに興味を示す仕掛けがあった。楽器は写真6にあるようにドラム、音板楽器、パイプ等打楽器を中心に準備されている。Grade K から Grade 4 (幼稚園年長から小学校4年生) までの総合音楽では、管楽器は使用しない。

#### ①Grade 2 (小学校2年生) 8:30~9:30

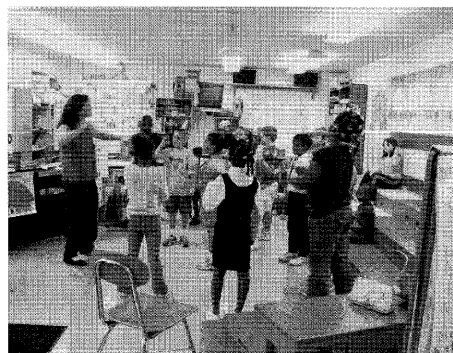
##### 授業の展開

- (a) ハンドサインによるソルフェージュ
- (b) CD の音楽に合わせて身体ウォームアップ
- (c) 言葉の韻律とリズム打ち
- (d) ドラムによるリズム打ち
- (e) CD の音楽による歌唱と身体表現

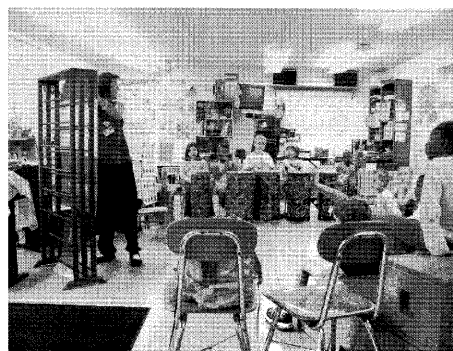


(写真6) 音楽室 D

クラス担任に誘導された子ども達は明るい顔で音楽室に入室してきた。ゲイ先生の音楽には大変興味がある様子である。はじめはハンドサインとキーボードによるソルフェージュから始まる。1オクターブのハンドサインを練習する。Si、Doの音域はGrade 2の子どもには高く、歌いにくそうであった。次にだんだん速くなる音楽のリズムに合わせて体を動かす。(写真7) これは身体を動かしウォームアップすることと、脳を活性化する目的で実施する。次の学習に向けての導入にもなっている。次は言葉の韻律 (Rhym) とリズム (Rhythm) を融合する練習である。まず、掲示物による言葉の確認 “There’s so much to do and Little time to do in, There’s so much to do and Little time to spare” の韻律 (譜例1) に合わせて膝を叩いてみる。言葉と同時のリズム打ちは国語の読み書き (English literacy) と同時に音楽記号理解 (Music literacy) にも効果的である。この点で英語は言葉の韻が明確なので、リズムを打つには大変都合がよい。



(写真7) Grade 2



(写真8) Grade 2

(譜例1)

There's so much to do and Little time to do it in

There's so much to do and Little time to spare

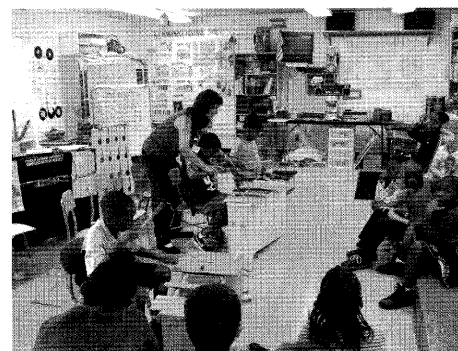
次にドラムによるリズム打ちの練習であったが、譜例1のリズムをドラムで叩く単純なもので、子ども達はどのように叩いたらよい音が出るのか考えている様子であった。(写真8) 教師は常に子どもに話しかける。発問し、褒めることで子どもに発言を促す。子ども達も活発に発言する。歌唱指導はフリップによる歌詞を示し、教科書は一切使用しない。最終的には音楽を覚えること。すなわち体全体を使用して音楽を理解することを意図している。最後はCD音楽による歌唱と身体表現と記したが、実際は教師の動作を真似することから始まる。だんだんテンポが速い音楽になり、個々が自由に音楽に合わせて表現するようになる。ここまでは自然で子ども達も動きを楽しんでいる。また、音楽はポピュラーな幼児曲からラップ・ミュージック、クラシックまでランダムである。このような音楽で楽譜なしに言葉とリズム、身体運動を行うことにより、脳はさらに活性化し、学習活動の効果があるものとゲイ先生は考えている。「書いてある音楽を歌唱するよりこれらの活動は脳を活性化する。」と先生は考えている。子ども達も体を動かすことが大好きである。

ここまでで1時限が終了した。60分の授業であったが、時間の長さを感じさせない取り組みであった。教師は最後に出席を取り、次時の予告は行いが、終了の合図もなく突然終わる。これは米国では普通である。出席の際には授業態度に問題がある子どもについて記録を取る。もし問題があれば、子どもにそのことを伝える。3回の警告を受けるとクラス担任は保護者を召還し注意することになるそうである。厳しい制度のようであるが、保護者との意思疎通を図ることはクラス経営上大切である。子ども達は休憩時間はなく、教室外ではクラス担任が待っており、子ども達をクラスへ誘導する。

## ②Grade 3 (小学校3年生) 9:30~10:30

### 授業の展開

- (a) ハンドサインによるソルフェージュ
- (b) 韻律 (Ryme) とリズム (Rythm)
- (c) 音楽による身体表現
- (e) 箔布を使用した、音楽による身体表現
- (f) 音楽による歌唱
- (g) ドラムのよる歌唱のリズム打ち
- (h) 音板楽器による歌唱の伴奏



(写真9) Grade 3

Grade 3 (小学校3年生) ではハンドサインのソルフェージュは Grade 2 と同様に1オクターブを使用するが、Grade 2 ではキーボードで音程を補助するが、Grade 3 ではアカペラで音程を取る。ただしあまり正しい音程ではなく、まだまだ習熟が必要である。次に韻律とリズム (Ryme and Rythm)、音楽による身体表現の過程は同じであるが、子ども達はより楽しそうにまたリズムに乗って体を動かすことが出来る。先入観があるかもしれないが、黒人がより細かなリズムに合わせて動くことが出来るようである。次は箔布 (スカーフ) を音楽に合わせて投げ、受け取るゲームである。布は大変薄く、投げるタイミングを考えないとリズムに合わせて受け取れない。子ども達は楽しそうであるが、なかなかタイミングが取れないようである。次は英語、ヒンドゥー語、アラビア語、中国語 (広東語)、イタリア語、フランス語の歌詞が次々に出てくる歌を歌唱する。基本的なd-moll のオスティナート (譜例2) に乗せて各国の歌詞が歌われる。

### (譜例2)



はじめて歌詞カード (約40×50cm) を使用し、歌唱する。子ども達とCDに合わせて歌う。歌詞の意味について子ども達ははっきり理解していないが、語感が良く歌いやすい。CDによるこの歌に合わせて、次のドラムによる拍打ち (両手または片手)、オルフの音板楽器<sup>(註11)</sup>の練習になる。音楽的初期段階にある子どもにとって、オルフの6つの教育理念の一つである子どもが自ら音楽創造に関わる楽器を用いることは、有益なことである。この音盤楽器はオルフの教育理念である、限られた音板を使用することにより、子どもが生得的に持っている音楽語法による即興的表現をす



ることが出来、子ども自らが音楽創造に関われる楽器を持つことが出来るのである。今回はD—A—Dの音板を使用することによりドラムと同じ拍打ちを練習していた。(写真8) この授業は新学期直後であるが、今後この部分の授業がどこまで進歩するのか興味がある。

### ③Grade 4 (小学校4年生) 10:30~11:30

#### 授業の展開

- (a) 音楽による身体表現
- (b) ハロウィン舞台発表練習
- (c) ハンドサインによるソルフェージュ
- (d) フリップによる歌唱

ウエストミード小学校で最上級学年である。音楽による身体表現の導入に続き、ハロウィーンの舞台発表練習に移った。

ゲイ先生はこの日、初めて楽譜を配布した。子ども達は11月

1日のハロウィンにちなんだ魔女の劇音楽を、CDの伴奏に合わせて楽譜を見ながら合唱する。ほとんどが斉唱であるが、何とか音程を維持しながら進行していく。まだ音取りの段階で音楽的には初期段階であるが、劇中の登場人物を表情豊かに表現しようとする努力を試みていた。練習後に楽譜を回収するので練習は音楽授業のみである。

子ども達は音楽室には何も持参していない。ゲイ先生の音楽室は常に音楽が聞こえており、子ども達はそれに反応することを要求されている。オルフの言う「子ども達が持つ生得的な音楽語法」を発達させるためには、これも一方法である。最後はフリップ(大型のミュージックカード)を使用し、“The Rapp Song” “I Am A Pizza”を練習する。リズムカルで言葉による音楽が、子ども達の集中力を維持する。

### ④Grade K (幼稚園年長) 12:30~13:00

#### 授業の展開

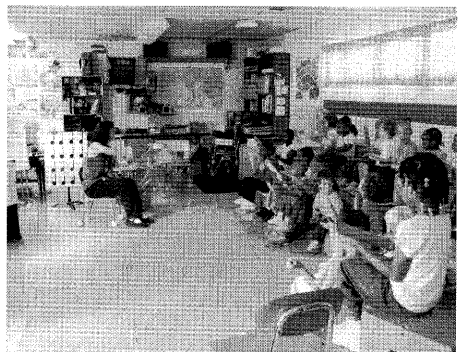
- (a) 音楽による身体表現
- (b) 教師の動作を模倣
- (c) フリップと音楽
- (d) パイプによるリズム打ち
- (e) フリップによる歌唱

ナッシュビル市における小学校の特徴は幼稚園年長からの義務教育開始である。米国での幼稚園、保育学校の就学前教

育の在籍率は3~5歳児平均で日本の84.5%に対し、65.8%<sup>(註12)</sup>である。これは米国では、伝統的に幼児教育は家庭で行う傾向が強い。しかし都市部では家庭環境に経済的な差があり、教育の機会を子どもに与えるために5歳児からの義務教育を実施している自治体が多い。これにより小学校と幼児教育のカリキュラム上の系統性、整合性を得ることが出来る。Grade Kにおけるゲイ先生の授業は、さらに音楽と表現を融合し子どもの能力を高める工夫をしている。「きらきら星」を基にしたテンポの速い曲が聞こえると、子ども達は体でリズムを取り身体表現を試みる。脳を活性化する



(写真10) Grade 4



(写真11) Grade K



導入である。次に少し落ち着いた4拍子の曲(M.M. ♩=100程度)で教師に合わせて上半身でリズムを取る。子どもの発達に応じた展開である。次はフリップによる音楽物語“10 Crunchy Carrots” “Baby Beluga”<sup>(註13)</sup>をCDに合わせて教師が歌いながらフリップに書かれた絵と歌詞を指し物語を進行していく。表情豊かに子ども達に話しかけていく。物語は10本の人参を友だちと家族に分けていく「10本のカリッとした人参(10 Crunchy Carrots)」の話と、海で沢山の魚に会う「子どもの白イルカ(Baby Beluga)」の話で、いずれも単純で幼児がイメージしやすいものであった。子ども達は、この物語を音楽の授業で繰り返し視聴することにより音楽と言葉、さらには単語の読み方まで記憶していくことになる。子ども達はこの物語が好きである。ゲイ先生がこのフリップを手にとると歓声が上がる。そして、教師と一緒に歌詞を見ながら自然にリズムに合わせて動きながら歌う。この光景は幼児教育において効果的で効率的な教育であるように思えた。次はプラスチックのパイプ(写真11)を使用し、リズム打ちをする。四分音符、4拍子の単純なリズムから始まり、パイプを掴んで音を短くしたり、列を作り動きながら音を出したり幼児の興味を引き出す工夫をしていた。最後は四分音符が図示してある掲示物に合わせてリズム打ちし、自然に音符を理解させる。ゲイ先生の授業は常に目的が明確であり、子ども達は次の行動に興味を持ち、授業を受けている。この時間の最後はフリップによる新しい音楽物語“Three Bears Boogie”<sup>(註13)</sup>を歌って聴かせる。次時以降も繰り返しこの音楽物語を実施することにより、音楽と読み方(Literacy)分野の発達を促すことになる。

⑤Grade 1 (小学校1年) 13:30~14:30

授業の展開

- (a) 音楽による身体表現
- (b) 打楽器によるリズム打ち
- (c) ダンスタイム
- (d) リボンによる表現

当日最後の授業は他の授業と同様に、音楽による身体表現からであるが、各学年ごとに発達段階の違いが顕著であることがわかる。動きを見ていると、特にGrade KとGrade 1では



(写真12) Grade 1

は同じテンポの曲でも、集中出来る時間の長さやリズムに合わせた動きにおいて明らかに身体能力の差があることに気付く。次は打楽器の小物を使用したリズム打ちである。マラカス、鈴、タンブリン、クラベス、シェーカー、ボンゴを使用し、四分音符 ♩=60~70程度の単純なリズムであるが、集中出来ずにあまりリズムが合わない。すると次のダンスタイムに移った。ここでは子ども達の集中力が落ちていることを、体を動かすことにより解消する意図がある。子ども達の様子を見に来ていた担任の先生も一緒になりダンスする姿が米国らしい。自由な表現やゲイ先生の動きに合わせて、3曲・15分間程であった。教師、子ども達共にこの上なく楽しそうであった。次はリボンを使用した動きである。(写真12) Grade 3では箔布を使用し素材に合わせた動きを考えたが、今回はリボンを使用し、音楽に合わせてどのような動きが適当かを感じ取る授業である。音楽は使用しないで、リボンを頭の上で振る、上下・体の前で揺らす等の動きを練習していた。次回は音楽に合わせた動

きを練習することと思われる。最後は部屋を暗くし、リラックスして音楽 “Mr. Sun”<sup>(註13)</sup> を聴き、気持ちを和らげる。終了の時間になり出席の確認後、担任に誘導され、音楽室を出た。

## おわりに

ナッシュビル市は米国では南部の中規模都市で、人柄も鷹揚で暮らしやすい場所である。今回訪問した小学校も人々は親切で明るく、印象は大変良い。子ども達は明るく素直でゲイ先生の授業を楽しみにしている様子が伝わってくる。先生の質問にも積極的に反応し、子ども達の教師の要求に対する反応は、直接的で素早いと感じた。ゲイ先生の授業は、今回の観察ではほとんど自ら伴奏をすることはなかった。CDの音楽を多用し、子ども達と出来るだけ近づくことを心がけていたように思えた。教師が自らキーボード等で伴奏をすると、教師の力量にもよるが、その間、子ども達の細かな動きや表情を読み取ることが困難になる場合が多い。指導する教師以外の伴奏では常に子ども達の動向を窺うことが出来る。ゲイ先生も常に子ども達と相対し、子ども達の様子を観察し、集中力と興味・関心を掴む工夫をしていた。授業は静と動がはっきりしたメリハリのある授業であり、音楽と身体の発達、知的発達を融合する授業を目指していた。これは日本の教育指導要領に分野、領域として明確に分けられた指導法とはそのスタイルを別にする指導法である。子ども達の興味・関心を教師が意図する方向へ向かわせることが授業の成否を決めるものと考えれば、ゲイ先生の授業は成功していると言って良いだろう。多様な機器や楽器を授業に取り入れ、それを使用する理念と周知な準備、計画のもとに授業を実践していけば成功する授業が実践出来る。このようなゲイ先生の授業は日本の授業でも取り入れることは可能であるし、小学校の音楽教師に是非紹介したい。

ナッシュビル市の教育水準で具体的にゲイ先生が実践していたのはハンドサインによるソルフェージュであった。その他の部分については打楽器の使用など、教育水準自体の到達度がまだ曖昧であり、教師の裁量に任されている部分が多い。この意味では教師の責任は大変重大である。ゲイ先生の場合では、音楽の教科書はなく必要な資料はその都度印刷し、配布していた。また、配付した資料も回収するのである。今後は新規に策定された音楽に関するナッシュビル市の教育水準がどのように運用されるか、注目していくつもりである。

日本においても、中央教育審議会は2005年10月26日に「新しい時代の義務教育を創造する（答申）」の中で「あるべき教師像」<sup>(註14)</sup>として、①教職に対する強い情熱、②教育の専門家としての確かな力量、③総合的な人間力を挙げた。これらは教師として当然備えるべきことである。しかし、これらが改めて問い直されている状況を考えねばならない。ゲイ先生の授業の優れている部分を今後、日本の小学校においても取り入れることが出来るようになれば授業改善に繋がるだろう。

最後に今回の調査に快くご協力いただいたウエストミード小学校、ゲイ・ウィギンズ先生、アラン・カックス教授他、関係者に心から感謝したい。

## 註

- 1 Scholastic Assessment Test の略、SAT は米国の 4 年生大学進学希望者を対象に行われる全米共通の進学適正テスト。基本的学力試験である SAT I と科目別の SAT II がある。SAT I は Reasoning Test (論理思考試験) であり、言語能力の試験である Verbal Section と数学的能力試験である Mathematics Section から成る。SAT II は英語、歴史、数学、自然科学、語学の 5 科目で、それぞれがさらに細分化されている。
- 2 American College Test の略、米国の大学進学希望者を対象にした適正テスト。試験は English、Mathematics、Reading、Science Reasoning (科学的推論) がある。
- 3 各番号と ( ) の和訳は筆者
- 4 カウエン (John Curwen 1816-1880) はイギリスの聖職者で Tonic Sol-fa を著し、ハンドサインを考案した。これは後にコダーイ (Kodaly Zoltán 1882-1967) により幼児教育にも取り入れられた。
- 5 John Curwen and Tonic Sol-fa [http://education.deakin.edu.au/music\\_ed/history/curwen.html](http://education.deakin.edu.au/music_ed/history/curwen.html)
- 6 音楽教育研究協会編「幼児の音楽教育」(音楽教育研究協会) より出典。このハンドサインを比較すると、シ(ティ)及びファに若干の差異がある。
- 7 2004-2005 Profail Westmeade Elementary School  
[http://www.mnps.org/schools/PDF-schools/2005-06\\_accountability/WestmeadeE.pdf](http://www.mnps.org/schools/PDF-schools/2005-06_accountability/WestmeadeE.pdf)
- 8 2000年における米国国勢調査 (Census2000 <http://www.census.gov/>) によると米国の大都市である100都市平均の主な人種構成は白人43.8%、黒人24.1%、ヒスパニック22.5%、アジア系6.6%で、10年前に比較して黒人は0.5%の減少、アジア系は1.3%の増加である。特に白人は8.3%減少しているが、ヒスパニックは5.3%増加している。今後もこの傾向は続くと考えられる。ニューヨーク市のクイーンズ地区では小学校児童の80%以上がヒスパニックで占められ、英語を日常語としない学習者 (English Language Learner) が4割を超える小学校も多い。
- 9 シャーリー・ハンディ女子は小学校や中級学校、特殊教育学校の教師、言語療法者を20年以上務めた。1989年に幼児音楽の作詞や歌手である Rffi Cavoukian (1948〜) と共同し、子どものための「音楽と読解力の連結」についての補助教具を開発し、ワークショップを毎年100以上の都市で開催している。女史はその著書である「Teaching With The Brain In Mind - The Importance Of Music, Movement, Rhythm And Rhyme -」で米国では教科としての優先順位が低い音楽は脳を活性化し、読解力や言語の発達等、より高度の学習活動へ導くことが出来る重要な教科であることを主張している。その教具としてパターン化された歌詞や絵を音楽と同時に用いる技法を開発した。  
著書: *The Language Link* (言葉の関連性)、*The Singing Reading Connection* (歌唱と読解力の関連性)  
*Brain Friendly Classroom* (脳は教室に友好的)
- 10 アラン・カックス (Allan Cox)、現バンダービルト大学ブレア音楽院 (Vanderbilt University Blair School of Music) 教授。カックス教授は筆者が米国留学当時、トランペットを師事した先生である。また、1980年から1982年、武蔵野音楽大学の客員教授も歴任した。
- 11 カール・オルフ Carl Orff (1885~1982) はその著書である『シュールヴェルク』で音楽教育の理念・方法上の原則について以下のように述べている。
  - (1) 子どもが生得的に持っている音楽語法による即興表現
  - (2) 言葉の音楽的特質ーリズム・抑揚・フレーズ感などーから活動を始める
  - (3) 子ども自らが音楽創造に関わる楽器を用いる
  - (4) 言葉・身体表現・ダンスとの統合・統合された音楽の追究とその教育
  - (5) 教育を子どもの実態そのものから始める、従って民族性・地域性等の差異によって教材・方法は異なる
  - (6) 全ての子ども (能力の有無に関わらず) が参加可能

[野村幸治 中山裕一郎『音楽を読む』(音楽之友社) 1998: p.74]

また、シュールヴェルクでは課程 (探求と経験) が大切であり、動きを通して空間の探求→声を通して音の探求→即興を通して形式の探求という課程を辿る。それぞれの課程の中では、模倣から創造へ→部分から全体へ→単純から複雑へ→個人からアンサンブルへというパターンが新しい概念が生まれるたびに繰り返されるとしている。

このような教育理念の中でオルフの楽器は次のように構成される。①声と体 (指をならす・拍手・身体を叩く・足踏み)、②音板楽器 (木琴・メタロフォン・グロッケンシュピール)、③リコーダー、④太鼓系列の楽器 (バスドラム・ボンゴ・コンガ・スネアドラム・タンブリン・ティンパニ・タムタム・ハンドドラム)、⑤木製

の楽器 (クラベス・ウッドブロック・スリットドラム・ギロ・木魚・マラカス・木製のガラガラ)、⑥金属製の楽器 (シンバル・フィンガーシンバル・カウベル・鈴・トライアングル・金属製のガラガラ・ウィンドチャイム)、⑦弦楽器 (ギター・ダブルベース・チェロ)、これらの楽器の中で今回使用されたのは、木琴とメタロフォンである。この楽器は、必要とする音板のみを取り付けて使用することにより、不必要な音を出す心配がなくなり、初心者や幼児でも容易に正しい響きを創造出来る。このことが教育理念上の即興演奏にも繋がっていく。

〔板野和彦『音楽教育メソッドの比較』(全音1994: pp.146-152)〕

- 12 最新教育データブック〔第9版〕2002年 時事通信社 p216、就学前教育の在籍率 (表V-11-1) 参照
- 13 *Ten Crunchy Carrots* “Ten Carrot Diamond” by Charlotte Diamond  
*Baby Beluga* “Baby Beluga” by Raffi Cavoukian 1980  
*Mr. Sun* “FUNDamentals” by Cj  
*Three Bears Boogie* “Once Upon a Ryme” by Cj
- 14 文部科学省の諮問機関である中央教育審議会は2005年10月26日に「新しい時代の義務教育を創造する (答申)」を出し、その第2部各論、第2章教師に対する揺るぎない信頼を確立する一教師の質の向上— p.19で今後の教師像を明確に示している。

### 引用・参考文献

- 1 小学校学習指導要領解説 音楽編 平成11年5月 文部省
- 2 黒崎 勲 学校選択と学校参加 —アメリカ教育改革の実験に学ぶ— 1994年 東京大学出版会
- 3 梶田正巳 ポストンの小学校 —ありのままのアメリカ教育— 1983年 有斐閣
- 4 新村元植 小学校における金管楽器指導の考察と実践 2004年 鹿児島女子短期大学紀要 pp.115-130
- 5 新村元植 ニューヨーク市における初等音楽教育 2005年 日本音楽教育学会 音楽教育ジャーナル第3巻第1号 PP.86-93
- 6 日本音楽教育学会第36回大会誌 2005年 日本音楽教育学会
- 7 野村幸治・中山裕一郎 音楽を読む 1998年 音楽之友社
- 8 板野和彦 音楽教育メソッドの比較 1994年 全音楽譜出版社

### 協力

- 1 Westmeade Elementary School Nashville Tennessee, USA
- 2 Ms Gay Hollins-Wiggins: Music teacher of Westmdade Elementary School
- 3 Mr Allan E Cox: Professor of Trumpet at Blair school of Music, Vanderbilt University

(2005年12月1日 受理)